



ティー・ロウ・プライスのエンゲージメント方針

2024年4月末

ティー・ロウ・プライスでは、運用会社としての責任は顧客のポートフォリオにおいて当社が組み入れている銘柄の発行体企業に対する積極的なオーナーシップ、モニタリング、相互のエンゲージメントを介して顧客の利益を守ることでありと考えています。顧客の信頼を賜り、ティー・ロウ・プライスは多くの世界トップクラスの企業において大口の投資家となっており、多くの企業の経営陣や取締役会メンバーとの面談が可能です。誠実な投資家としての責任は証券を購入する判断を以って終わるものとは考えていません。ポートフォリオで保有している銘柄の発行体企業の経営陣とは定期的な対話を行い、懸念点があれば企業に伝えます。

ティー・ロウ・プライス・インベストメント・マネジメント・インク（TRPIM）は、ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インク（TRPA）とは別組織の環境・社会・ガバナンス（ESG）チームを設置し、米国で投資顧問会社として登録されました。TRPAとTRPIMのESGチームの決定事項はそれぞれ独自のものです。同様のアプローチ、フレームワーク、哲学を適用しています。

- TRPAが開示する組入銘柄のエンゲージメントに関するミーティングをご希望の方は、engagement@troweprice.com までご連絡ください。
- TRPIMが開示する組入銘柄のミーティングをご希望の方は、engagement.trpim@troweprice.com までご連絡ください。

エンゲージメントの定義

私たちは、運用業務の様々な過程において発行体企業と対話していますが、本方針で定義するエンゲージメントとは、ティー・ロウ・プライスと発行体企業が、企業の環境面での慣行、コーポレートガバナンス、あるいは事業に影響するような社会課題等について情報の取得や意見を交換する目的で対話することを指すものとします。

一般的に、エンゲージメントの目的は以下の通りです。

- 1 議決権行使における論点を議論すること
- 2 コーポレート・ガバナンスやサステナビリティに関する具体的な事柄について、当社の意見を発行体企業に伝えること
- 3 企業が特定の問題に対処するよう要請すること

注：このポリシー・ステートメント（方針表明）は、当社が顧客の資産を運用し、ポートフォリオにて投資対象としている発行体企業と対話する場合のエンゲージメントに焦点を合わせています。企業が発行する証券には株式、ハイイールド債、投資適格債等が含まれます。

スチュワードシップの理念

ティー・ロウ・プライスの投資プロセスには、エンゲージメント、議決権行使、そして、環境・社会・ガバナンス（ESG）課題を含む幅広い投資に係る検討材料の精査が組み込まれています。こういった論点は投資判断の重要な材料であるため、エンゲージメントは運用プロフェッショナルが主導し、投資判断を左右する重要な事柄に焦点を当てて行います。通常、企業との対話はポートフォリオ・マネジャーが主導し、当該業界を担当するアナリストとコーポレート・ガバナンスおよびサステナビリティに関する自社のESGスペシャリストが、担当企業、業種、環境・社会・ガバナンス（ESG）に関する専門的観点からポートフォリオ・マネジャーをサポートしています。以下、当社のエンゲージメントにおける重要項目です。

- 会社の取締役会においては誰が株主の代表者となるのか？
取締役会は会社にとっての戦略的資産か？
取締役会では多角的な視点が反映されているか？

- 執行役員の報酬制度や経営陣のインセンティブの決定要因は何か？
- 株主の権利や投資家保護はどの程度強固か？
- 環境リスク、人的資源、施設、ステークホルダーとの関係、そして重要なリソースに対する長期アクセスの管理はどの程度強固か？
- 債券満期までの期間で、債券保有者の利益にマイナスの影響を及ぼす可能性のあるESGリスクはあるか？

当社のエンゲージメントでは、個別企業に焦点を当てます。ファンダメンタルズ分析を土台とし、アクティブ運用を行うという当社の基本的な運用アプローチに沿い、個別企業に焦点を当てた手法を取ることで、インパクトを最大化できると考えています。

ティール・ロウ・プライスでは顧客資産は主としてアクティブに運用されているため、多くの場合において株式を売却するという最終的な選択肢を有しています。環境、社会、ガバナンス課題に対し企業の対応が不適切であると考えられる場合、最初に、当社のエンゲージメントにより企業の対応が是正されるかどうかを判断します。エンゲージメントを行っても、望ましい成果を生まないと判断すれば、当該株式や債券をアンダーウェイトまたは売却する場合があります。ポジションの縮小や売却の決定は、ESG課題が投資テーマや運用資産に与えるリスクを鑑みてポートフォリオ・マネジャーが決定します。

株式投資の場合、上記に加え、議決権行使によって意思表示をすることが可能です。当社では、顧客の資産を預かる上で、議決権行使はスチュワードシップ責任を果たす極めて重要な要素とみなしています。議決権行使は株式所有に伴う特権であるとともに受託者責任でもあり、投資の観点から熟慮して行っています。顧客のポートフォリオにて保有している株式の議決権行使は、コーポレートガバナンスの基本原則と企業固有の状況を考慮し、判断します。

ティール・ロウ・プライスの運用資産の多くは、顧客の長期運用目標を達成することを唯一の使命としています。これらの資産は、投資パフォーマンスを最大化することを目的として、スチュワードシップを含むESGを考慮した投資プロセスを採用しています。最終的には、企業および投資家の長期かつ持続的な成功を促す可能性が最も高い議案を支持することを目指しています。

私たちのお客様の中には、純粋な投資パフォーマンスのみを投資目的としない方もいます。そのため、インパクト戦略やネット・ゼロ戦略¹のように、ESGの視点を取り入れた投資商品（マネジメント）も提供しています。これら戦略のポートフォリオ・マネジャーは、時折、当社の主流ファンドとは異なるテーマに取り組むことがあります。また、当社のインパクト戦略やネット・ゼロ戦略のように、投資パフォーマンスとESG目標の達成という2つの目標を反映した議決権行使ポリシーを遵守することもあります。

エンゲージメントの実践

ティール・ロウ・プライスのエンゲージメントは、当社オフィスでの個別会合、企業への訪問、電話会議、議決権行使、他の投資家との共同会合、取締役会への正式な書簡のいくつかの方法を通じて行われます。企業の行動がESGの観点から、設定した顧客の運用目標の達成を阻害する要因になり得ると判断した場合には、可能なあらゆる手段を用い、その企業の経営陣に当社の見解を伝えます。

ここでは、発行体にエンゲージメントを行う際、どのような傾向があるのかについてご説明します。企業や発行体が直面している問題について、ティール・ロウ・プライスが特定の見解を持つ場合があります。このような見解は、状況を分析し、その企業の状況について最も深い知識を持つアナリストやポートフォリオ・マネジャーと協議を重ねた結果、導き出されます。私たちのエンゲージメントでは、私たちから対処法的な解決策を提示することは珍しく、発行体とのそれまでの複数回の対話を通じた結果として導き出される場合が多くなっています。

エンゲージメントの目的は、私たちが対処法を見つけることではなく、私たちはESGの懸念事項を特定し、それが対象企業にとってなぜ問題となるか見解を共有し、企業と対処方法について議論します。最終的に戦略を決定し承認するのは企業側の経営陣と取締役会の役割であり、彼らが自社に適した解決策を決定することが最も適切であると考えます。また、私たちは少数株主であるため、経営陣や取締役会と同レベルの情報にアクセスすることができない点には留意が必要です。

こうした取り組みでは、経験豊富なアクティブ投資家としての視点を共有することで、企業が特定のESGに関する懸念を対処する際に役立てることに重点を置いています。また、業界におけるベストプラクティスや検討すべき新たな視点や業界に共通して見られる見解などの知見を提供する場合があります。多くの場合、当社のESGエンゲージメントにおける焦点は、情報開示の改善に当てます。これは、私たち長期投資家として、発行体のリスクと投資機会の全容を適切に評価するために最も重要なことと考えるからです。

私たちは、投資期間中、顧客に対して、発行体のパフォーマンスと戦略を注意深く監視し、思慮深く議決権を行使する責任を負っています。ESGに関するエンゲージメントは、その責任を果たすための重要な要素です。この点において、企業が私たちが成功のための積極的かつ建設的なパートナーと見做してくれることを目指しています。

ESGエンゲージメント

ESGエンゲージメントの目的は様々ですが、大きく分けて3つのカテゴリーに分類される傾向があります。ESG対話、論争主導型エンゲージメント、テーマ型エンゲージメントです。

当社のエンゲージメントの多くは、建設的な**ESG対話**の形式をとっています。この対話では、ベストプラクティスに関する私たちの見解を提供し、特定のESGトピックをフィードバックします。一般的に、私たちはこれらの対話で環境、社会、ガバナンスのうち懸念のあるトピックを全て取り上げ、具体的な対策（例えば、総株主利益と整合性のある役員報酬プラン、企業の気候変動リスクを適切に評価できるような、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）など）の採用を企業に提案する場合があります。

企業が重大な論争に巻き込まれた可能性がある場合、状況を理解するために経営陣に話を聞き、全体像を把握します。このエンゲージメントにより、企業慣行や事件の背景をより深く理解することができます。こうしたケースでは、改善の余地がある場合、企業にアプローチを強化するよう働きかけることがあります。

テーマ別エンゲージメントは、運用チームが特定の業務外の問題を重要なリスクとして認識している場合に用いる対話です。同一テーマについて複数の企業とエンゲージメントを行い、同業他社の対応と比較することで、このテーマに関して改善すべきプラクティスに関する知識を蓄積することができます。一般的に経済の構造的な変化や不均衡を表すような、重要で長期的なテーマを優先します。テーマ別エンゲージメントには、取締役会の多様性、持続可能な農業、温室効果ガス排出、医療へのアクセスなどのテーマが含まれます。

¹現在、ティール・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクが運用するストラテジーおよびファンドです。すべてのビークルがすべての法域で利用できるわけではありません。

エスカレーション型エンゲージメント

当社のエンゲージメントの中には、**エスカレーション型エンゲージメント**に分類されるものがあります。このエンゲージメントは様々なESGトピックを含みますが、通常、単一の問題または明確な原因から発生した一連の問題に焦点を当てます。ほとんどの場合、このようなエスカレーションは、ESG対話の期間中、企業が私たちの期待に応えられなかった場合に行われます。こうした場合、企業の経営陣や役員とのより集中的で深い対話が必要となります。対話の目的は、運用目標の達成を阻害する重大な障害と考えられるものについて、私たちの見解を共有することにあります。また、懸念に対処するために、発行体と建設的に協働する方法を模索します。私たちの経験では、こうしたエンゲージメントは、ポートフォリオ・マネジャーが直接主導し、深刻な懸念が存在するものの、企業とその投資家（株式投資家、債券投資家、またはその両方）の協力によって改善される可能性があるとの見解を反映した場合に最も効果的です。このような状況は、投資家にとって有意義で成功的な結果をもたらす可能性が最も高いと判断し、集中的に時間とリソースを投入します。

イントロダクション・ミーティング

期待値の設定に重点を置く初回のミーティング。

ESGエンゲージメント

特定のESGトピックに関するフィードバックを提供するためのESG課題に関するエンゲージメント。典型的な注目分野には、以下が考えられます。

- ・報酬体系
- ・取締役会の構成
- ・環境マネジメント
- ・社員待遇 など

エスカレーション型エンゲージメント

通常のESG対話では解決されない、特定の問題に対処します。

私たちは、建設的に、しかし毅然とした態度でエンゲージメントを行い、発行体にその問題への対処を促します。

次のステップとしては、その発行体に反対票を投じることや投資売却の実行が考えられます。

プレミーティング・エンゲージメント

もう一つのエンゲージメントは、議決権行使に焦点を当てたものです。株主総会の数週間前に、十分な情報に基づいて議決権を行使できるよう頻繁に追加情報を求めます。また、株主総会資料で提供された情報の補完を目的にプレミーティング・エンゲージメントを企業側から要求される場合もあります。このような形のエンゲージメントは、論点となる議決権行使項目に限定して短時間で行われる傾向がありますが、当社のエンゲージメント・プログラム全体の中で効果的な要素であると認識しています。重要な議決権行使案件が保留となっている状況において、このエンゲージメントは投資家がESGのポジティブな結果に向けた期待や交渉を強める良い機会と考えられます。

競合候補のいる役員選出

取締役会議席の空席数以上に候補者がいて委任状争奪戦となった際に、当社が当該企業の重要な投資家であり、反対派が重大な懸念を表明している場合は、議席を争う両当事者と会い、十分な情報に基づいた投票判断を行うよう努めます。

協働エンゲージメント

市場全体での情報開示の向上や、ビジネス慣行の改善を目的とした業界のイニシアチブに他の投資家と共同して参加することがあります。当社では、こういった目的を促進するため、支援活動や各種イニシアチブに参加し、投資家をとりまとめて活動を先導してきました。詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

ESGエンゲージメントの記録

エンゲージメント・ミーティングには株式運用チームと債券運用チームのポートフォリオ・マネジャー、アナリストおよびESGスペシャリストが参加します。エンゲージメントから得られる洞察を当社の運用部門全体で活用するため、エンゲージメント・ミーティングの記録は他の調査情報と同様に、社内リサーチ・プラットフォーム（TRPAおよびTRPIM）にて一括して管理・共有されています。私たちは長年にわたりエンゲージメントを記録し報告してきました。また、最近では、投資先企業との間で設定したESG関連の期待や目標を体系的に記録することを始めています。私たちは通常36ヶ月以内に達成可能で測定可能な行動目標を設定し、年次のスチュワードシップ・レポートにてその進捗状況を報告します。

エンゲージメント、議決権行使、投資判断

ティー・ロウ・プライスの受託資産は主にアクティブ運用であるため、当社の運用プロセスには、投資先企業にとって重要であると考えられるESGの評価が含まれます。そのため、しばしば、当社のポートフォリオが保有する証券のユニバースは、パッシブファンドや同業他社のアクティブファンドと大きく異なります。

当社のエンゲージメント・プログラムの基本は、ポートフォリオに含まれる個別証券の評価に基づきます。これは、ファンダメンタル調査、RIIM（Responsible Investing Indicator Model）などの独自の社内ESG調査ツール、ポートフォリオレビューを通じて特定したエンゲージメント対象銘柄について、具体的に分析することで行なわれます。このボトム・アップ・アプローチは、当社のポートフォリオに最も関連性の高いESG課題を特定するのに役立つと考え、当社のエンゲージメント・プログラムの主要な推進力となっています。

ボトム・アップ・アプローチと並行して、テーマ別のエンゲージメント・プログラムも実施しています。これらのプログラムは通常、数年にわたり実施されますが、急を要するESG課題が顕在化した場合、12～18カ月の期間で行われるテーマ別エンゲージメントプログラムを通じて対処する場合もあります。

状況によっては、当社の投資理念の妨げとなる重大なESG課題が、通常のエンゲージメントでは十分に対処できないことがあります。私たちは、まず、当社のエンゲージメントにより企業の対応が是正されるかどうか、継続的なエンゲージメントが根本的に顧客の長期的な運用目標の達成につながるかどうかを評価します。このような場合は事前に次に掲げる項目を検討します。当社が大口の株主ないし大口の債券投資家であるか？

- 長期投資家として当該銘柄の組み入れを継続する見込みか？
- 当該企業へ投資しているポートフォリオ・マネジャーが複数いる場合、全員が企業の抱える課題の性質と影響について同意見か？

- 企業が抱える課題について当社が具体的に把握しており、提案すべき建設的な解決策を有しているか？
- 企業と対話を行うことにより、投資のリスクリターン特性の向上に必要な変化を促すことができるか？

もし、この取り組みがポジティブな結果をもたらさず、顧客の利益につながらないと判断した場合は、株式や債券をアンダーウェイトまたは売却する場合があります。（売却の決定は、ESG課題が投資テーマや運用資産に与えるリスクを判断してポートフォリオ・マネジャーが行います。）ポジティブな結果が得られると判断した場合は、特定のエンゲージメントを「エスカレーション」の対象に指定します。

経営陣に反対する投票は、ほとんどの場合、エスカレーションの対象と考えています。当社では、熟考を重ね慎重に議決権の判断を行っており、決して顧客のポートフォリオにおいて保有している企業との対立を煽ることはありません。当社の議決権行使に対する考え方は、エンゲージメントと議決権行使を通じ、当社の考えを表明することで、当該企業が同業他社をアウトパフォームし、顧客の長期運用目標達成を促すことです。

大手機関投資家は昨今、取締役会の推奨に反対する投票を行った比率に基づいた一律的な評価を受けることが多々ありますが、アクティブ運用のポートフォリオには、抱えるESG課題が少ない銘柄を選択し、ESG課題のある銘柄を売却することが重要だと考えています。こうした理由から、アクティブ戦略とパッシブ戦略の行使実績は単純比較できないと考えます。

初期投資

- アクティブ運用では、運用プロセスの一部として、ESG要因の評価を行うことができます。
- ティー・ロウ・プライスのポートフォリオは、パッシブ運用と大きく異なる可能性があり、必要とされるエンゲージメントのタイプは比較できません。

ESGエンゲージメント

- 企業と対話を行うだけでなく、エスカレーション型エンゲージメントやテーマ別エンゲージメントではESGの問題を建設的に検討することができます。
- ティー・ロウ・プライスのポートフォリオは、組入銘柄が重要なESG課題に取り組むことで、潜在的な利益を得ることができます。

エスカレーション

- エスカレーションを行う可能性があるエンゲージメントはすべて、当該企業が同業他社をアウトパフォームし、顧客の長期運用目標達成を促すものを検討します。
- 結果として、エスカレーションしたエンゲージメントや議決権行使によって株式や債券をアンダーウェイトもしくは売却する可能性があります。

ソブリン債、地方債、証券化商品（債券）の発行体²

ソブリン債、地方債、証券化商品（債券）の発行体に対して、見解や期待を伝え、必要に応じて、発行体の債務返済能力や意思に影響を与えられると考えるESG事項について具体的な行動を要請しています。このようなタイプの発行体との関わりは、社債や株式と比較すると少数です。

ソブリン債

私たちは、債務管理部門担当官、中央銀行の職員、財務省や環境省などの主要官庁の代表者、その他のソブリン債の代表者とESGエンゲージメントを行います。また、1対1のミーティングだけでなく、少人数のESGソブリン会議や共同でのESGソブリンエンゲージメントにも参加しています。

ESGソブリンとのエンゲージメントは、ソブリン発行体にとっても、ティー・ロウ・プライスのような投資家にとっても価値があると考えます。なぜなら、ESG事項が重大な信用リスクに発展し、最終的に資本コストや場合によっては資本アクセスに影響を及ぼすと考えられる事項について、私たちが強くフィードバックできるからです。

ソブリン発行体へのエンゲージメントは、社債や株式と比較して、様々な理由からあまり一般的ではありません。第一に、ソブリン債はコベナンツやデフォルト条項があまり明示されておらず、デフォルト時に投資家が利用できるリコースが限定的なためです。第二に、ESG課題の管理は様々な機関に分散しており、政権の交代などによって影響を受ける傾向があります。どちらの要因も、歴史的に、ソブリン発行体の投資家とのエンゲージメントを希薄化してきました。しかし、ESGラベル付き債券市場の出現や、投資家がソブリン債の評価においてESG要素を重要視するようになったことで、この状況は変化しつつあります。

地方債

地方債市場は非常に幅広く、州や地方自治体のようなソブリン以下の発行体から、非営利企業である医療法人のように、一般企業の発行体に近い非営利・民間発行体まであります。発行体の性質が企業に近い場合は、企業発行体と同様のESGエンゲージメントプロセスに従います。（当該プロセスについて本書の該当箇所を参照）地方債の発行体は、政府機関や準政府機関に対するエンゲージメントという点で、よりソブリンに近い発行体です。このような場合、選挙で選ばれた役員は、投資家よりも有権者や納税者の意見を優先するため、私たちの見解が与える影響はより限定的となります。

証券化商品（債券）

証券化商品（債券）市場は、住宅ローン担保証券（MBS）のエージェンシー（政府機関・政府支援機関）やノンエージェンシーの発行体から、資産担保証券（ABS）の発行体まで多岐にわたります。ABSが企業によって発行される場合（例えば自動車ローン担保証券）、その原資産プールのオリジネーターと、本書で既に説明した企業の発行体に対する同様のESGエンゲージメントプロセスに従って対話を行います。こうした発行体企業向けの同様のエンゲージメントに加え、証券化スポンサー、サービサーとも債券投資家に関連するESG事項についてエンゲージメントを行います。

² ソブリン債、地方債および／または証券化商品の発行体が発行する証券に投資する運用ポートフォリオに適用されます。

モニタリング体制

専属の社内リサーチアナリストが、財務情報、バリュエーション、マクロ経済などの目に見える投資ファクターと、環境、社会、コーポレートガバナンスに関する投資ファクターを同時に検討します。ESG要素はポートフォリオレベルでも考慮されます。ポートフォリオ・マネジャーとの話し合いにより、ESGへの取り組みの優先順位が決まる場合もあります。

利益相反の管理体制

ティー・ロウ・プライスでは、議決権行使およびエンゲージメント活動によって、顧客の利益目的が損なわれないよう、予防策を講じています。

まず、当社の資本構造が寄与しています。関連会社のホールディング・カンパニー（親会社）であるティー・ロウ・プライス・グループ・インクは、米国のNASDAQ取引所に上場しており、その株式は市場で取引されており、かつ、アクティブ資産運用とその関連サービスに特化した独立系資産運用会社であるため、一般的な利益相反は起こりにくい経営構造となっています。

ティー・ロウ・プライスは、1937年の創業以来、資産運用ビジネスに特化しており、1986年に上場企業となりました。どのような市場環境においても、顧客のニーズに応えるに十分な堅固かつ負債のない財務基盤を擁しています。健全なバランスシートと豊富な財務資源の保守的な経営を通じ、現在では業界の中で最も財務基盤が強固な企業の一社となっています。つまり、経営の安定性や存続を憂慮する必要がなく、常に顧客のニーズの充足に焦点を当てる経営や運営にフォーカスすることができます。

こうした当社の証券の保有構造は、別の保有構造の場合に起こり得る様々な部門にまたがる証券発行者との取引関係に起因する利益相反を軽減するのに役立っています。

利益相反の管理については、議決権行使ガイドラインの中で規定しています。

議決権行使ガイドラインは、TRPAは[こちら](#)、TRPIMは[こちら](#)にて詳細を記しています。

方針の概要は以下のとおりです。

- 主に顧客とのリレーションシップ・マネジャー、マーケティングまたはセールスに従事する者は、エンゲージメントに関係する会議に加わるできません。
- 社員による個人的な利益相反に関しては、ティー・ロウ・プライスの倫理規定により、すべての従業員は自己の利益と顧客の利益が相反する可能性のある「不適切な状況」に身を置くことを回避するように義務づけられており、特定の社外事業活動に従事できないよう制限していますが、利益相反が疑われる場合、ポートフォリオ・マネジャーまたは議決権行使委員会のメンバーは、その議案に関して議決権行使への関与は禁止されています。
- 当社が主導する企業とのエンゲージメントはすべて、アナリスト、ポートフォリオ・マネジャー、そしてESGスペシャリストを含むティー・ロウ・プライスの運用プロフェッショナルが主導します。本書に記載した通り、エンゲージメント計画の策定および実行に際し、当社との取引関係は考慮いたしません。

PAIポリシー

ティー・ロウ・プライス・アソシエイツをはじめとする全ての関連会社（以下、ティー・ロウ・プライス。）では、欧州における金融サービスセクターにおけるサステナビリティ関連開示規則（SFDR）の施行に伴い、投資において主要な悪影響（PAI）について開示を行うPAIポリシーを策定しました。ティー・ロウ・プライスでは、サステナビリティに対し、主要な悪影響を適宜投資判断やエンゲージメントにおいて考慮しています。当方針では、ティー・ロウ・プライスがどのようにPAIを銘柄ごとに考慮しているか、また、年次の評価をエンゲージメントのプロセスにどのように組み入れているか、また、必要な場合は投資先企業と特定のPAI評価についてどのように対話を行うかを説明しています。詳細は、[PAIポリシー](#)をご参照ください。

まとめ

環境、社会、ガバナンスに関する企業とのエンゲージメントは、ESGインテグレーション・プロセスの核心です。世界の大手企業の多くに多額の投資を行う重要な大手機関投資家として、私たちは、将来の業績や投資リターンをより強固なものにするに信じるESG慣行を奨励するにあたり、有利な位置にあると考えています。本書に記載の通り、企業の慣行に具体的なアクションを促すエンゲージメントもありますが、企業の事業におけるESG課題のエクスポージャーとその管理に関する情報を取得することを目的とする場合もあります。環境、社会、ガバナンスの課題を、企業と当社の投資方針に関する対話の中に位置づけることで、課題の重要性を企業の経営陣と共有することができ、建設的な対話を促すことができると確信しています。

よくあるご質問

Q: ティー・ロウ・プライスは企業に対するエンゲージメントの結果を公表していますか？

A: 当社は、ハイレベルなエンゲージメントの統計データを当社のESG年次報告書、スチュワードシップ年次報告書、および年次の国連責任投資原則（PRI）報告書に記載しており、これらの報告書を一般に公開しています。さらに、一部のエンゲージメントの実績と結果を例示的なケーススタディとして定期的に公表しています。発行体は、アドバイザー・クライアントの透明性を高めるため、その年にティール・ロウ・プライスとエンゲージメントを行ったすべての発行体の企業名を開示していることに留意してください。また、ケース・スタディとして一部のエンゲージメントを選択し、発行体名、議論したトピックの概要、期待されるフォローアップやアクションアイテム、関連する議決権行使を含む一般的な詳細も公表しています。これらの開示の目的は、企業とのESGエンゲージメント協議の内容を高いレベルで開示することです。

Q: ティー・ロウ・プライスはどのような状況で企業が主導するエンゲージメントに参加しますか？

A: 通常、当社では、顧客のポートフォリオにて保有している企業のESG課題に関するミーティングに参加を希望しています。しかし、時間や人的資源の制約上、当社の運用する、ファンダメンタル分析に基づくアクティブ運用の複数のポートフォリオにおいて保有があり、合計で一定以上の投資を行っている企業とのみ対話を行っています。一般的に、当該企業の大口株主上位50社に当社が含まれる場合を指します。残念ながらこれ以外の企業との対話を行うことは難しいというのが現状です。

Q: 企業がティール・ロウ・プライスとエンゲージメントを希望する場合、コンタクト先はどこですか？

A: 企業のご担当者より、以下で該当するESGアドバイザー・チームへメールをお送りください。

ティール・ロウ・プライス・アソシエイツ・インク（TRPA）

✉ engagement@troweprice.com

ティール・ロウ・プライス・インベストメント・マネジメント・インク（TRPIM）

✉ engagement.trpim@troweprice.com

その際、以下について貴社の情報を提供をお願いします。

- 明確かつ具体的なリクエスト（「何らか意見をいただけるか確認したい」より「会議をお願いしたい」の方が好ましいと考えております。）
- 経営陣がエンゲージメントを希望する議題の概要
- ミーティングの希望日時と会議形式（電話会議、ビデオ会議もしくは対面会議）
- 会議を担当する方の連絡先

Eメールは適切なESG投資スペシャリストに送付され、当社担当からミーティングの設定についてご連絡します。

注：企業は、ティール・ロウ・プライスとのエンゲージメントが有益ではないと判断した場合、もしくは、現状では懸念事項が存在しない場合には、当社とのエンゲージメントを行う義務を負うものではありません。当社は、企業とのミーティングやコンタクトにおいて特定の頻度（例えば、年に一度）で実施することを期待するものではありません。顧客のポートフォリオにて投資を行っている企業の経営陣とのミーティングは、アクティブ運用を行うポートフォリオ・マネジャーとして運用プロセスの中核部分に据えており、全てのケースにおいてESG課題についての追加的なエンゲージメントが必須であるとはみなしていません。

Q: エンゲージメントのミーティングには、企業側からは誰が出席すべきですか？ティール・ロウ・プライスからは誰が参加しますか？

A: 一般的にESGエンゲージメントについては、企業側からは然るべき管理部門のメンバーの方（法務担当者、人事責任者、IR担当者、総務担当者、サステナビリティ部門担当者）が、ティール・ロウ・プライス側からはESGスペシャリストが参加するケースがほとんどです。参加者は、ミーティングの議題に基づき決定すべきと考えています。

時としてティール・ロウ・プライスは、ガバナンスないしサステナビリティに関連する課題が投資目標の達成を阻害していると判断した場合、企業により詳細なミーティングの設定を依頼することがあります。こうしたミーティングは通常、まず最初に経営陣のトップレベルの方と面談を行った後、取締役会のメンバー（単独または複数）とのミーティングを要請することもあります。このようなミーティングの参加者は、企業側からは経営陣および取締役、当社からはESGスペシャリスト、担当アナリスト、担当するポートフォリオにおいて当該企業へ投資を行っているポートフォリオ・マネジャーなどが参加いたします。

Q: エンゲージメントに当たりどのような資料や準備が必要でしょうか？

A: 事前に資料をお送りいただく必要はありませんが、当社は、企業とティー・ロウ・プライスの間での対話内容を企業ごとに保存しているため、概要資料が非常に有益です。一般的に概要資料には以下の内容が含まれます。

- 昨年度における会社の業績ハイライトの概要
- 経営陣のインセンティブ・プランの概要
- 取締役会メンバーとそれぞれのスキル/経験を記載した一覧表
- 環境問題または社会問題に関して重要と考える取組みのKPI指標の説明
- 各担当者の連絡先リスト

また、会議の前にTRPAまたはTRPIMの議決権行使方針、ESG方針をご希望の場合は次の以下のリンク先をご参照ください。

troweprice.com/esg

当社の参加者は、企業の直近の株主議決権ファイル、直近の株主総会における投票結果、直近の当社アナリストによる分析レポート、コーポレート・サステナビリティ・レポート、企業関連ニュースなどを調べ会議に備えます。当社の経験上、エンゲージメント・ミーティングは各参加者が事前に然るべき情報を頭に入れておくことが重要であると考えています。

Q: エンゲージメントのミーティングは、委任状を託された外部者または他の第三者のアドバイザーがアレンジすることができますか？

✉ 第三者の方がクライアントである企業に代わってESGアドバイザー・チームにメールを送り、会議を設定することは可能です。

ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インク (TRPA)

✉ engagement@troweprice.com

ティー・ロウ・プライス・インベストメント・マネジメント・インク (TRPIM)

engagement.trpim@troweprice.com

以下の点にご留意ください。

- 第三者のアドバイザーもしくは委任状を託された外部者がミーティングに参加する場合は、事前にティー・ロウ・プライスから承認を得て下さい。承諾なくして第三者が会議に参加することはお断りしております。
- エンゲージメントではすべての参加者に会議の冒頭でご自身で自己紹介していただきます。参加表明せず会議に参加したり会議の内容を聞くことはできません。
- 委任状を託された外部者は、ミーティング設定以外の目的で上記のメールアドレスを使用しないでください。
- いかなる理由であれ、委任状を託された外部者が、ティー・ロウ・プライスの投資アナリストまたはポートフォリオ・マネジャーに直接連絡することはお断りしております。

重要情報

当資料は、ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクおよびその関係会社が情報提供等の目的で作成したものを、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が翻訳したものであり、特定の運用商品を勧誘するものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料はティー・ロウ・プライスの書面による同意のない限り他に転載することはできません。

資料内に記載されている個別銘柄につき、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンド等における保有・非保有および将来の組み入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。投資一任契約は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。

当社の運用戦略では時価資産残高に対し、一定の金額までを区切りとして最高1.265%（消費税10%込み）の逡減的報酬料率を適用いたします。また、運用報酬の他に、組入有価証券の売買委託手数料等の費用も発生しますが、運用内容等によって変動しますので、事前に上限額または合計額を表示できません。詳しくは契約締結前交付書面をご覧ください。

「T. ROWE PRICE, INVEST WITH CONFIDENCE」および大角羊のデザインは、ティー・ロウ・プライス・グループ・インクの商標または登録商標です。

ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

金融商品取引業者関東財務局長（金商）第3043号

加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会/一般社団法人 投資信託協会/一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
